

PTA通信

150号

2026年2月1日



高岡工芸高等学校
富山県高岡市中川1-1-20
TEL (0766) 21 - 1630
FAX (0766) 22 - 1631



「ご挨拶」

令和7年度PTA会長 林 研

日頃よりPTA活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。今年度は役員皆様の負担を減らしつつ凝縮した活動を意識し取り組んでまいりました。

本年も尚美展のPTA活動として売店の運営と食堂物販補助を行いました。コロナ禍から数年が過ぎ今回は生徒主体の模擬店も開催される事になりました。その中で当PTA活動と内容が重複しないよう、また経費削減にも努め役員や先生方皆様のご協力もあって概ね計画通りに終える事が出来ました。来年度は新執行部が更に創意工夫を凝らし、より良い尚美展になることを期待しております。

本年度も全国、北信越、県など様々な会合や研修会に参加致しました。近年PTA活動の在り方が問われる中、各校活動をどう進めるか、成り手不足をどう解決するかに苦悩されておられ当校も同様です。このPTA通信が発行される頃には次年度引継ぎも行いますが、新たなPTA活動にむけてしっかり後任へバトンをお渡ししたいと思います。

最後に、昨年度途中交代で執行部に加わった私を支えていただいた全役員、先生方、そして保護者の皆様に厚く感謝を申し上げます。今後も本校PTAが生徒の応援団であり続けていただきますことご祈念申し上げ1年間お世話になりました御礼とご挨拶とさせていただきます。



「トライアンドエラー」

校長 角井 勇人

保護者の皆様には、日頃より本校教育活動にご理解とご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。



さて、PTAは文字どおり親と教師の会であり、その目的は子どもの健全な成長です。世の中ではPTAの在り方がいろいろとされていますが、保護者と連携し、安定した教育環境を提供することが子どもには大切です。

子どもには元々備わっている生きる力があります。生物が生きる術はDNAに刻まれています。高度な社会性をもつ人間には、DNA+学習が必要です。科学技術はトライアンドエラーで進歩しましたが、人間にもトライアンドエラーという学習過程があって健全な大人に成長していくものです。人は誰も失敗するものであり、特に思春期にはよく間違えるものです。そのときには周囲の大人の寄り添いと愛情ある指導が必要です。

保護者と教師は指導の両輪です。学校では教師が学習や生活を指導しますが、そこには保護者の関心と関わりというスパイスが欠かせません。まっすぐ進むためにも、皆様のより一層のご協力をお願いいたします。

企業説明会

2025年6月21日(土)
会場:高岡工芸高等学校体育館にて

富山地区(83社)/高岡地区(47社)
新川地区(55社)/砺波地区(37社)

高校生を採用したいと希望されている企業様が集結しました。
高岡地区では本校に企業が集結し、ブースを設置、ホームページでは得られない情報や企業の雰囲気を実感していただきました。



お暑い中、40社以上の会社が集まった会社説明会は、会場となった体育館に入るととても緊張感のある雰囲気を感じました。

参加した生徒の眼差しは、真剣に会社の方の話を聞いており凛々しい姿でした。保護者と一緒に参加している生徒もあり、とても興味深い説明会ですし、自分も子供がいいと言うならば、子供と一緒に参加したいと思いました。

今回、保護者一人で参加し恐縮しましたが、会社の方の話はわかりやすく、子供に伝える部分も話をしていただき助かりました。

また、高岡工芸高校出身で今まさに頑張っている若手社員が説明会に参加している会社があり、会社の良いところをアピールしている姿は、とても印象に残りました。

この先どうするかと将来を悩むと思います。失敗を恐れず、学生の時からいっぱい経験をしてほしいと思います。会社説明会も子供には経験の一つだと思いました。

PTA進路指導委員長 福島淳史

各委員の感想

開始時間と共に、生徒と保護者の皆さんが関心のある企業の説明を熱心に聞き入っている姿を見て回っていました。

私自身も、どういった内容なのか興味もあり子どもは参加していませんでしたが折角の機会、企業説明を聞かせてもらいました、説明を受けた企業では、会社の概要、実績、勤務内容、労働環境、賃金、福利厚生などについての説明を受けてきました。

一緒に聞いていた生徒さんは、担当の方に色々質問をされていました。その姿を見て、わからない事、知りたい事があれば、何でも聞いて欲しいと思いました。相手も答えてくれますし生徒の求めている事を知るチャンスだと思っています。

会場内は熱気、活気があり説明をしてくださる企業側の方、生徒、そして生徒の保護者の方々が真剣に話をされていると感じました。

今回の企業説明会は富山県工業教育振興会員企業の企画の一環のようで多種多様な企業の方々が来られており、時間に限りはありますが生徒が希望する企業について丁寧な説明を受けられるようでした。

たくさんの方が知っているような企業から地場産業の地域に根付いた企業まで幅広く来られていました。

45社もの企業の方が参加しており、丁寧な企業説明を聞けるので就職を考えている生徒達にとってはまたとない機会でもあり生徒自身の将来に対しての強い想いがハッキリと見える場でもあったと感じました。

生徒達も積極的に質問をしており少しでも気になる企業について話を聞きたい気持ち伝わってきました。

企業の方も少人数で説明しているので限られた時間を有意義にしようとしているのが伝わってきました。

私は補助をする立場でしたが、こういった取り組みをととても素晴らしいと思いました。

2・3年の生徒・保護者が参加し、希望の企業3社のPRを聞いていました。

初めて参加させていただき、生徒がしっかり就職の準備をし、就職に向けてこんな早くから動いていることに驚きました。

子どもたちが自分の就職先を考え、保護者が応援する上で、企業説明会は就職活動における重要なステップの一つだと感じました。

思っていたよりも本格的な会場設営で高校生向けと思っていましたが大学生が行くような説明会の場のようで驚きを感じました。

話を聞きに来た生徒さんたちも真剣に説明を聞いていて印象深かったです。自分は2社説明を聞かせてもらいました。若い社員さんが説明をされていた企業の話がとても聞きやすく、あっという間に20分の持ち時間が経過していました。企業側もアピールすべきことをいかに表現するか、聞く側をどう引き付けるか、一社会人として、とても勉強になりました。

生徒があまり集まっていないブースの方と少しお話する機会があり、今その方は、製造業は人気がないから人を集めるのに必死だと言っておられました。

高校にはたくさんの求人が来るとは思うのですが、その中でも人気のある職種、ない職種があると思うので、難しい問題だと感じました。

多くの企業が集まり、まとめて気になる企業の説明が聞け、これからの進路の参考になる良い機会でした。

企業の方々もいかに興味を持ってもらえるかプレゼンの進め方で、あっという間に時間が経ってしまいました。

機械系、電気系、建築系、自動車製造他学生本人がやりたい職業、職種によってブースの集まりにバラツキがあり、寂しい顔をしておられる企業もありました。

たまたま北信越大会に出場している学生もいてタイミングが合わず残念だろうなと思いました。

生徒たちが3年間の学校生活の中で、いろいろな授業を受け、資格を取得進路し、将来に向けて成長する大切な時期です。
進路指導委員は生徒の進路実現のサポートをしていきます。

第118回

尚美展

令和7年10月17日(金)
10月18日(土)



生徒達が一生懸命つくった
それぞれの個性が成功に導いた



それぞれの思いで
本の紹介をしてい
て面白かった



土曜日が
大変そうだけど楽しい



自分たちで売るのが
楽しかったうれしい

敵な雰囲気
に緊張します



売上目標から立てて準備しました
みんなで作るのが楽しかった



時間を忘れて
色塗りを楽しめました



祭りのような
盛り上がりで楽しい



高いと言われて
安くしたら売れた



ステージ発表を
楽しみにしていました！



この日まで授業などで
いろいろ覚えて知識をつけて
技術を磨いた、頑張りました



カステラやたい焼きの型を
造り、販売しました



丁寧に
教えてくれました



みんな
楽しんでくれてよかった！



来年は…

- 更に良い尚美展を目指していきたい
- 模擬店でデザート系、甘いものを出したい
- 未成年の主張がしたい
- のど自慢大会してほしい
- 生徒会ステージの設置、音響、照明などあるといいな…

高岡工芸高等学校が担ってきた

人づくり

高岡工芸高等学校の歴史とこれまで学校が担ってきた人づくりについて、青井美術館の太田広信館長に話を伺いました。

初代校長の納富介次郎先生は工芸を産業として発展させるために高岡工芸高等学校を創設され、多くの工芸産業の担い手を育成されました。

デザインという概念を確立し、図案という言葉をつくったのも納富先生です。

日本の工芸を発展させた人物で、その建学を精神、より高きを求めてやまない「尚美」の心を受け継ぎ、高岡工芸高等学校は富山県の工芸・工業教育において、これまで大きな役割を担ってきました。立派な卒業生もたくさんいらっしゃいます。

その人づくりに対する精神は今も脈々と受け継がれています。



編集後記

P T A通信150号の発行にあたり、今年度より新しい試みを2つ実施致しました。一つ目は今年度より年2回発行から1回発行の変更、二つ目は特別活動の主な成果については「尚美」にも記載されることからさらにで確認いただくことになりました。

今回の取材を通して、親と先生が協力して、生徒の「好き」を後押しし、地域のために、人のために役立つ人材を育成する。この事はいつの時代も変わらない高岡工芸高等学校の人づくりの原点だと感じました。お話を聞かせていただいている途中に生徒が一人、太田先生を訪ねてきました。「高校を卒業したら、進学して教師になり、またこの学校に戻って教えたい！」そんな現役生徒のイキイキとした声を聞いて、とても嬉しくなりました。人が頑張る姿って素敵ですね。

これから高岡工芸高等学校P T Aは生徒たちの未来を応援します。

やりたい事、
好きな事を伸ばす！

太田先生は、生徒の「好き」を応援するのが教師の仕事で、生徒の期待にこたえ、粘り強く最後まで指導することが出来る教師が集まっているのが高岡工芸高等学校の魅力だと言われます。

その中でも嬉しそうに話していたいた、藤子・F・不二雄さんの話が大変印象的でした。

太田先生が高岡工芸高等学校の教員時代に全国の同窓会を回り、そのご縁で、ドラえもん「しずかちゃん」のモデルになった藤本弘さんの初恋の人にもお会いされたそうです。

ドラえもんの生みの親、藤子・F・不二雄さんは電気科を卒業して、一度は就職を考えますが、夢をあきらめずに漫画家になり成功されました。

好きなことで
突き抜ける！

高岡工芸高等学校生徒会誌「尚美」27号（昭和63年3月1日発行）19頁掲載の記事に「私の進路決定時の教訓」として、昭和二十七年に卒業された藤本弘さんが左記の様に語られています。

『卒業はしたものの就職試験がまるで通らない。何度受けても、どこを受けても不合格。当然です。そのうちに・・・遊びで描いていたまんがの方が売れ出して、本人も思いがけず、まんがが家になってしまった、というのが真相です。さて、この体験談から強い教訓を汲み取るとすれば・・・』

考えようによっては、電気が難しかったおかげで、まんがに熱中し、就職試験に片端から落ちたおかげで今日の藤子不二雄があるとも言えるのです。予定が狂っても軌道を外れても、必ずしも絶望する必要はない。それなりに道はひらけてくるものだ、ということでしょうか。』

基礎、基本を
大切に
頑張る！

未来は誰かに決められるものではなく、自ら拓くものです。好きな事に向かって全力で頑張る事が出来ればそれを支える先生方も全力で応援してくれそうです。何よりも大切なことは、夢（好きなこと）を実現するには基本的な技術をおろそかにせずに、真面目に地道に継続して頑張ることです。

太田先生はニコニコと穏やかにそう言われます。



青井美術館
太田広信 館長